
スターダスト

日頃寝 ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スターダスト

【Nコード】

N3278P

【作者名】

日頃寝 ハル

【あらすじ】

クマのヌイグルミ「ダスト」

灰色で両目の色が違う。

（前書き）

初めて詩を書きました。

ダスト 僕の名前

小さなクマのヌイグルミ

「知ってるかい？ 君はテキトウに作られたんだ」

知ってるよ。型だつてとられなかったんだ

「知ってるかい？ 君の目が左右で違う理由」

知ってるよ。ボタンが足りなかったんだ

「知ってるかい？ どうして君のハダが灰色なのか」

知ってるよ。余ったフェルトで作られたんだ

どうして僕の口はへの字なの

「許せなかったからさ」

どうして僕の目は青と赤なの

「悲しかったからさ」

どうして僕の名前はダストなの

「要らない記憶で作られたからさ」

どうして僕を捨てないの

「捨てられない記憶だからさ」

捨てられない

捨てたくても捨てられない

小さなクマの中

綿に混じった涙の記憶

僕は知ってるよ

僕の中に何が入っているのかを

記憶の中のダスト
時が経つほど
キラキラ光る

（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

初めて詩を書きました。

オカシナ点ございましたらご指摘お願いします。

窓の外を見て、光が帯にや線になって見えるときがあります。
そういう現象を「チンダル現象」と言うみたいです。

光の波形と塵の大きさが同じになったら、塵に光が反射して、
いつもは見えない光が見えるようになる。

苦しい記憶も悲しい記憶も、時間が経ったら光のように見えるとき
が来るのでしょうか。

いつもは見えない光が、何かの拍子に感じることもあるのでしょうか。

なんて考えてみたり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3278p/>

スターダスト

2010年12月6日01時55分発行